

ヒツバタゴ	<i>Chionanthus retusus</i> Lindl. et Paxton	絶滅危惧Ⅱ類
(環境省:絶滅危惧Ⅱ類)		モクセイ科
選定理由	大部分の生育地で生育条件が明らかに悪化しつつあり、個体数が大幅に減少している。	<p>写真(奥田浩之)</p> 
形態の特徴	落葉高木。葉は単葉、長楕円形～広卵形で全縁、裏面の主脈基部から葉柄にかけて淡褐色の軟毛がある。花は円錐花序につき、花冠は白色で4裂し、裂片は線状倒披針形で長さ1.2-2cm。	
生態的特徴	丘陵地から低山地の湿地や山裾に見られる。花期は5月。	
分布状況	岐阜県と隣接する愛知県の一部に遺存し、九州(対馬)、朝鮮、台湾、中国中南部に隔離分布する。岐阜県においては県南東部、県南中部の南にみられる。	
減少要因	生育環境となる湿地の減少。本種の生育環境である丘陵地は、人間の生産活動の活発な場所でもあり、改変により生育地が消失している。	
保全対策	本種は東濃地域とその周辺地域に準固有的な種であるので、このような種が生育する湿地の保全・創出には十分な配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	「日本の野生植物 木本Ⅱ」(佐竹義輔ほか(編), 1989年)	

文責:奥田浩之